

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

新金沢町		
大安寺		
中新田		
新津東町1～3丁目		
西金沢		
東金沢		
満願寺		
六郷		

●位置図

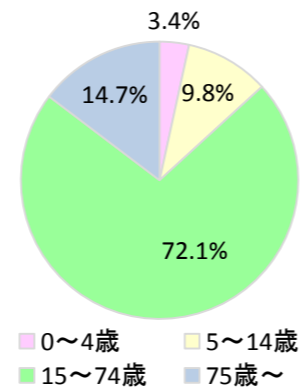


●施設・団体

市役所・区役所等	—	
警察・消防	中新田駐在所	
消防団	秋葉方面隊 新津第1分団・新津第2分団・新津第10分団	
水防倉庫	—	
一時避難場所	—	
広域避難場所	—	
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・保育園	新金沢保育園、中新田保育園
	高齢者福祉施設	あがうら、アイナーシング東金沢
	障がい者福祉施設	—

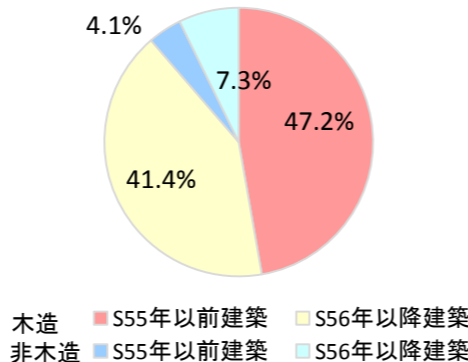
●人口

総人口	4,735人	地区の割合	市の割合
0～4歳	162人	3.4%	4.0%
5～14歳	464人	9.8%	8.5%
15～74歳	3,414人	72.1%	74.6%
75歳～	695人	14.7%	12.9%
65歳以上人口	1,243人	26.3%	26.0%
世帯数	1,655世帯		
一世帯あたり人口	2.9人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	1,085人/km ²		1,108人/km ²
昼間人口	4,763人	夜間の100.6%	



●建物関連指標

総棟数	2,600棟	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,228棟	47.2%
	S56年以降建築	1,077棟	41.4%
	計	2,306棟	88.7%
非木造	S55年以前建築	106棟	4.1%
	S56年以降建築	189棟	7.3%
	計	295棟	11.3%
S56年以降建築物	1,266棟	48.7%	52.4%



S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわなないことがあります。

●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]阿賀小学校	7.9	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]新津第五中学校	6.7	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]新金沢保育園	6.9	1	○	—	×	—
[ヒ]新津地域学園	6.4	5	○	—	2階以上	—
[ヒ]新津地区勤労青少年ホーム	6.8	2	○	—	×	—
[ヒ]新津工業高等学校	6.4	3	○	—	2階以上	—

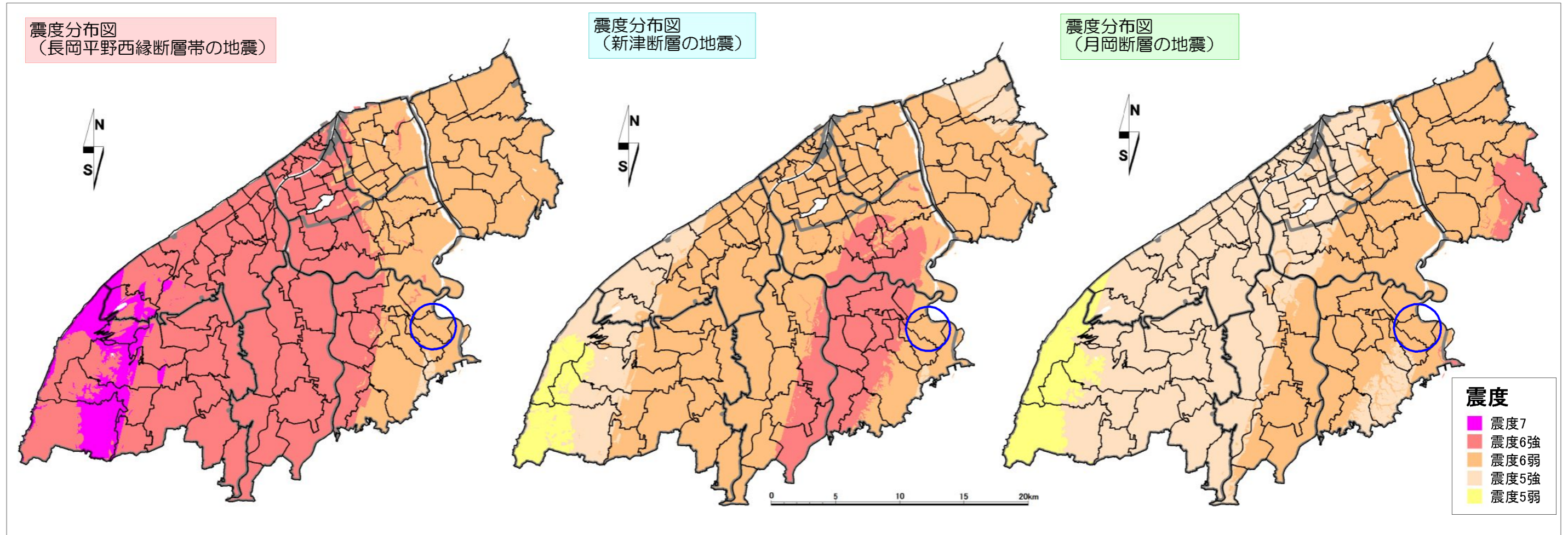
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]新津第二小学校	6.3	3	○	—	2階以上	○
[ヒ]新津第二幼稚園	7.0	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]新津東保育園	7.0	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]新津図書館	7.5	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]新津金屋運動広場	8.1	1	○	—	×	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」・避難可能な階数を、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

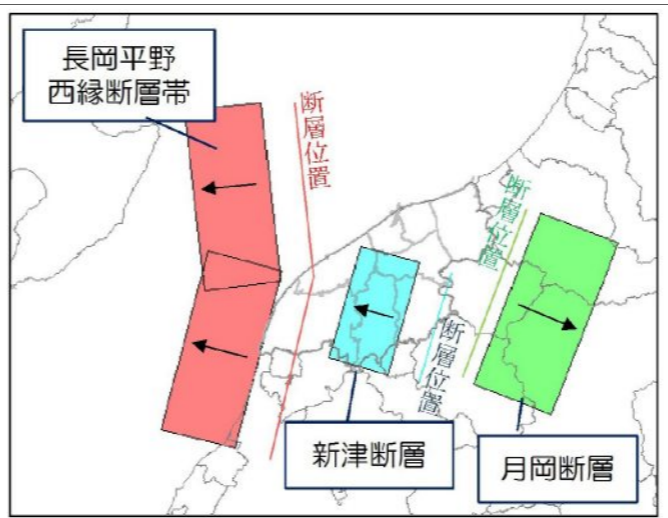
地震・津波	地区の大部分に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性は高い。津波の浸水は想定されていない。
水害・土砂	阿賀野川の洪水、早出川の洪水及び小阿賀野川・能代川の洪水によって、地区の広い範囲で浸水の可能性がある。



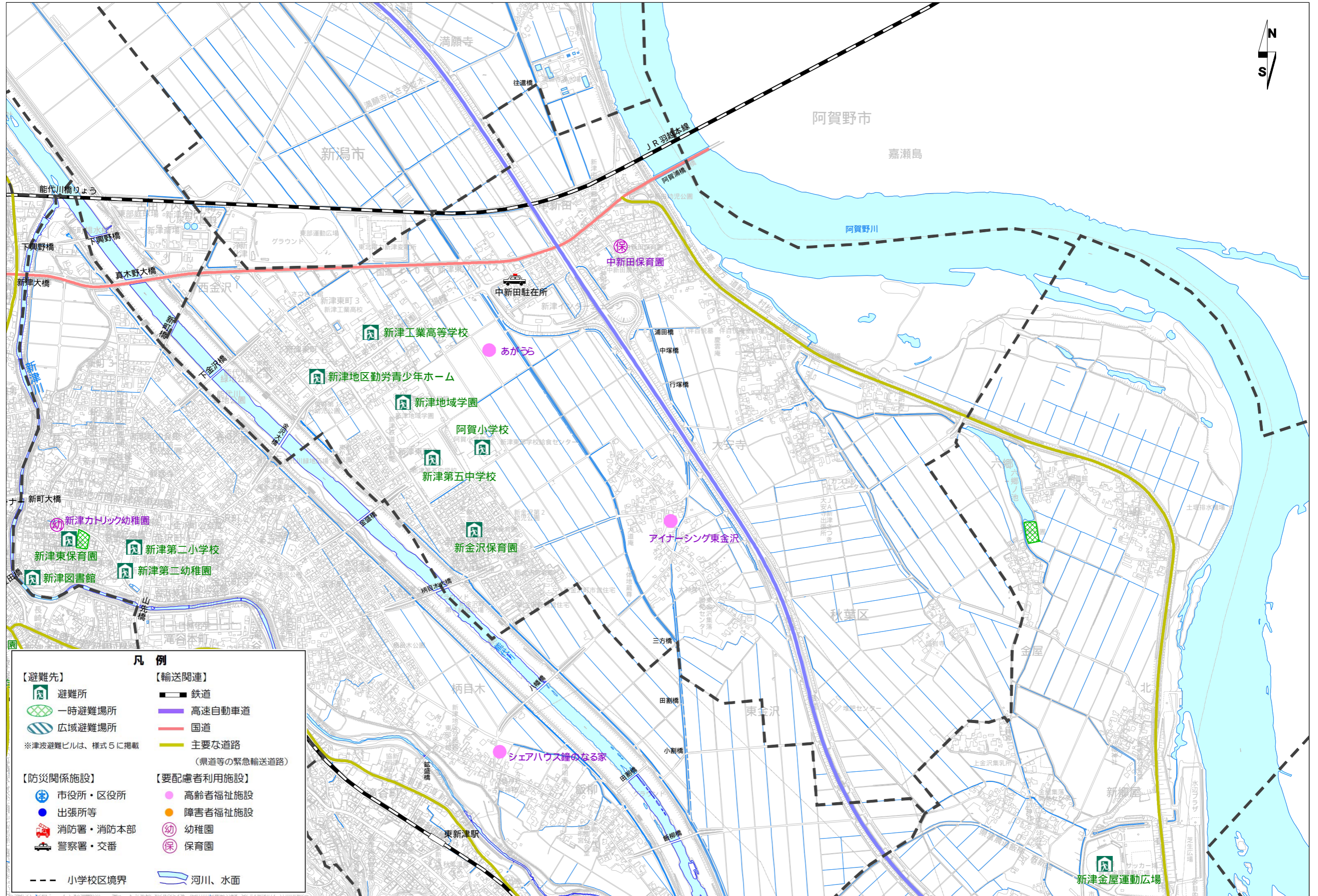
	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。
【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

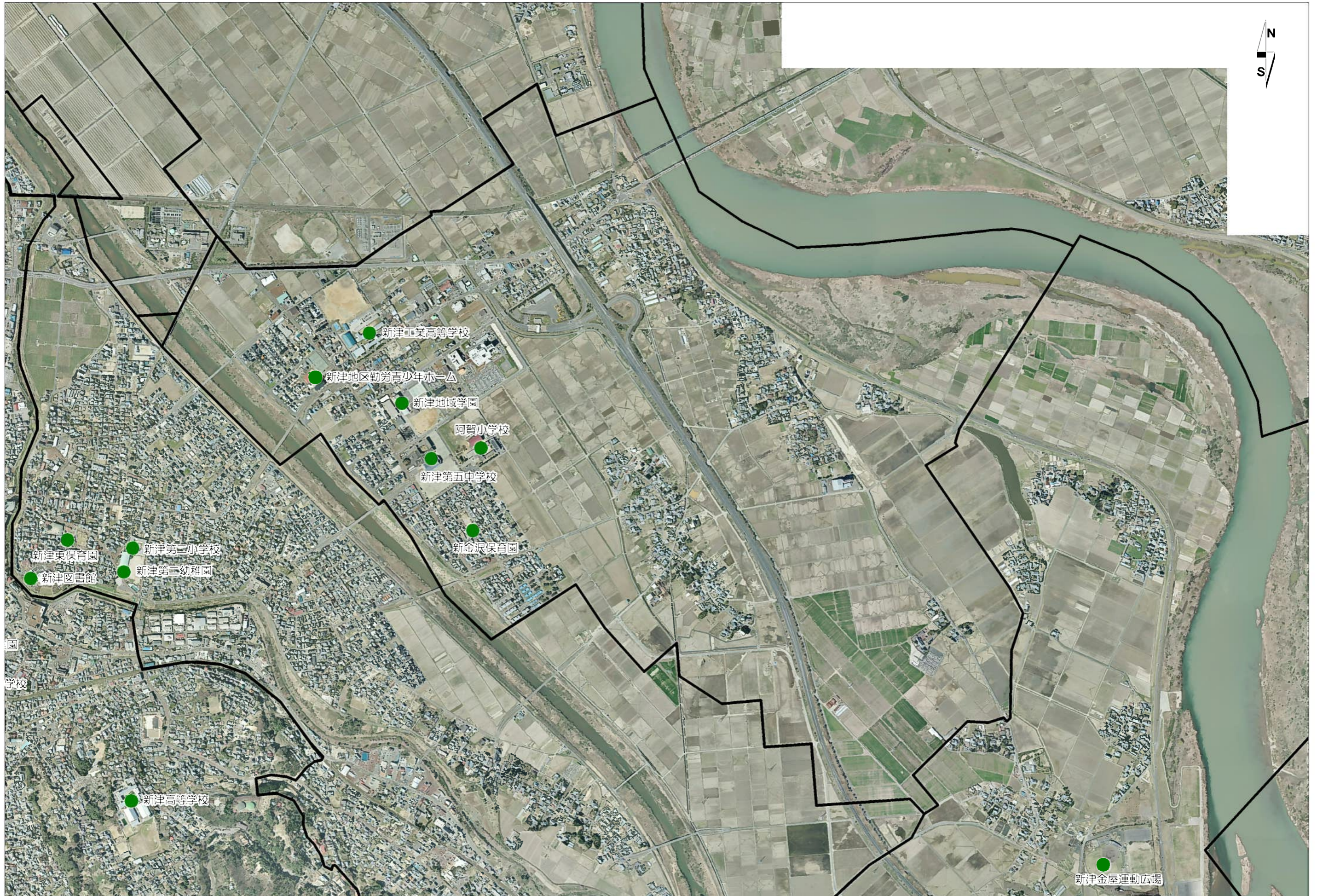


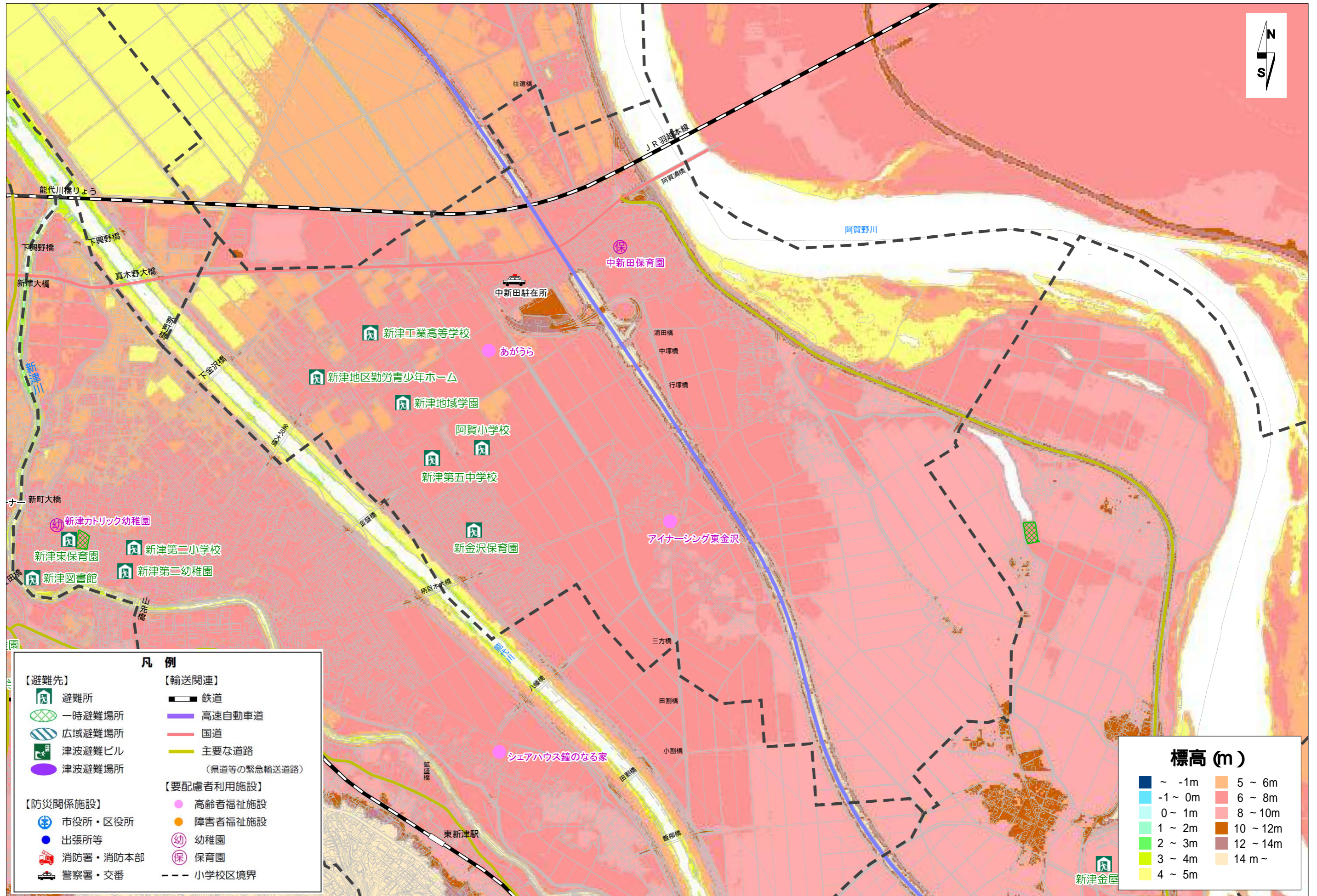
← は、断層の傾きを示しています。



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)

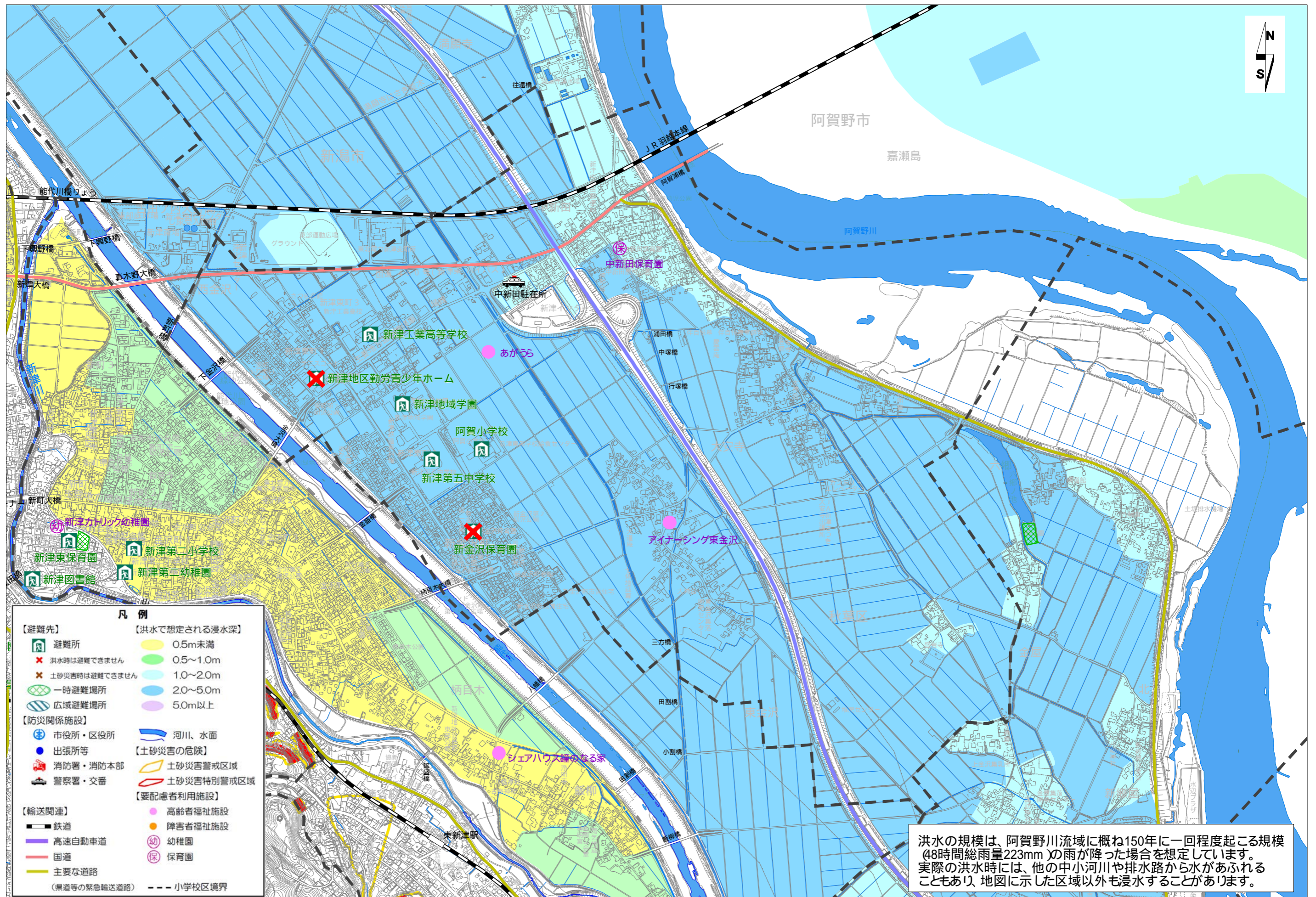






[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)





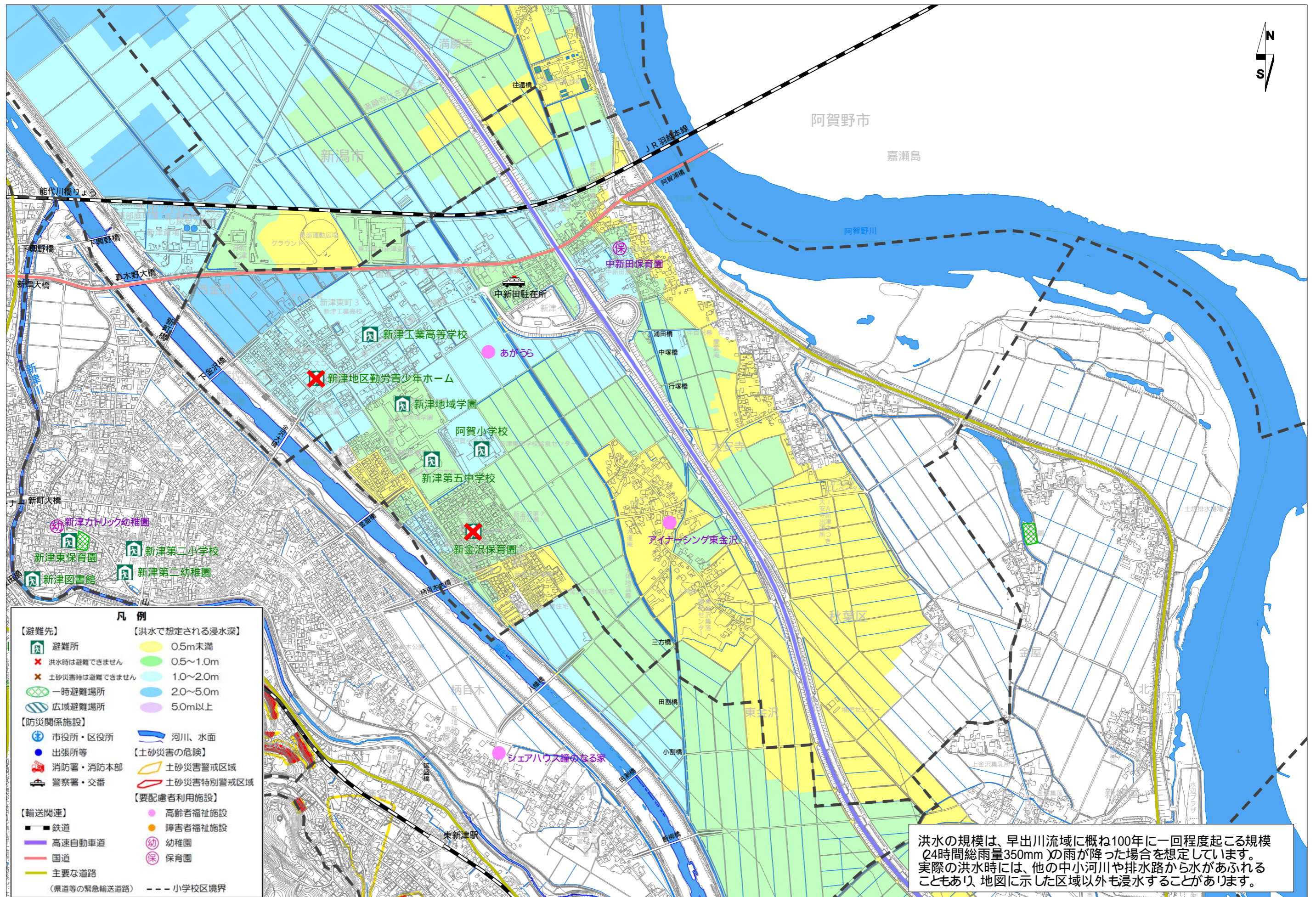
洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量223mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)



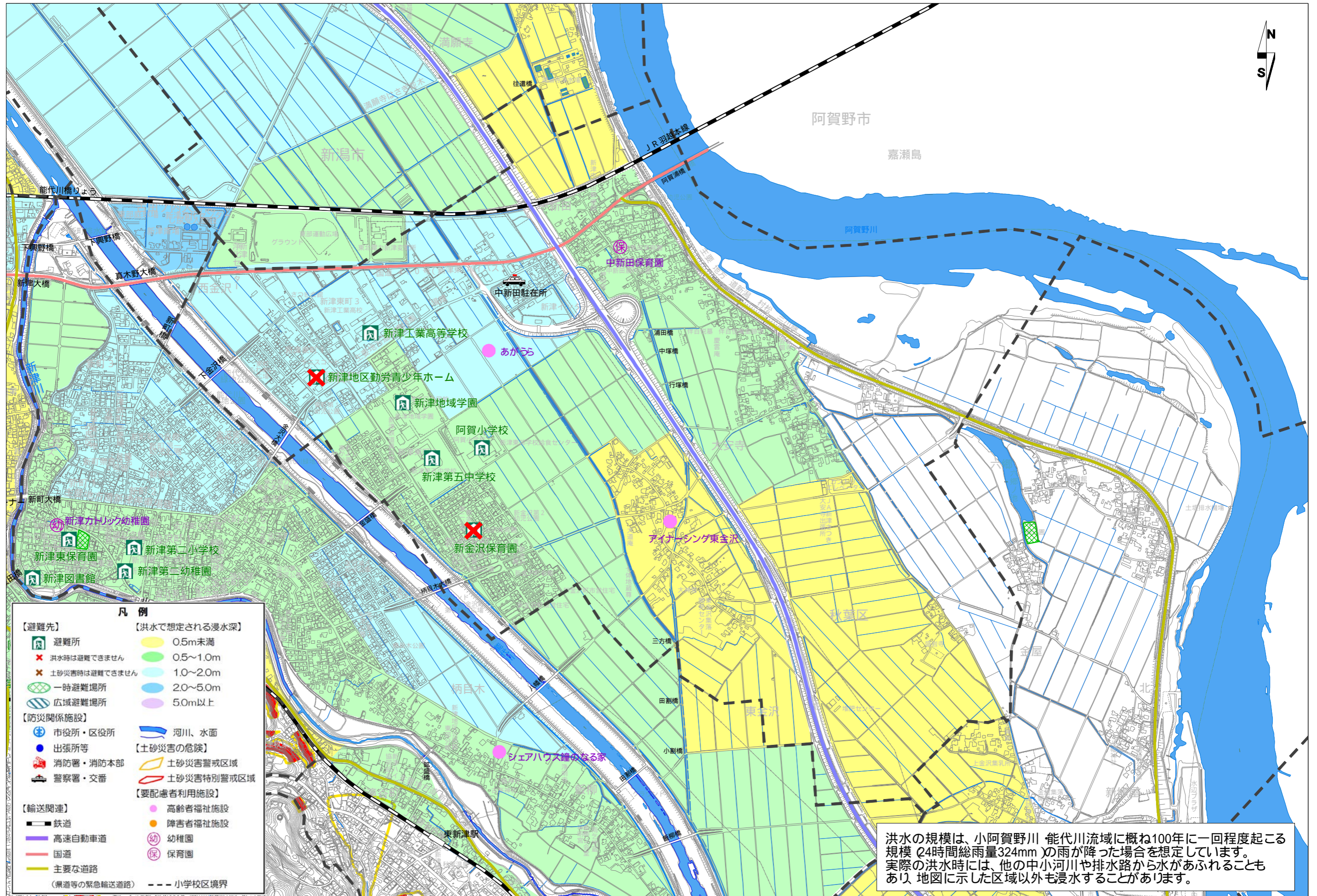
様式6-2 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(早出川)

阿賀小学校区



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
早出川浸水想定区域(新潟県,平成17年6月20日)





洪水の規模は、小阿賀野川・能代川流域に概ね100年に一回程度起こる規模（24時間総雨量324mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
小阿賀野川・能代川浸水想定区域（新潟県、平成16年6月23日）

